



令和5年度

花開く活力、
広がる笑顔、
政令市新潟

新潟市立学校園教育の推進

新潟市教育委員会

学校園の取組

- 各学校園は、自校園で設定する目指す子どもの姿を実現するために、自校園の教育ビジョンの実現に取り組みます。その際、「教育の動向」を注視しつつ、下記の事柄を学校園運営の基盤として捉え、教育委員会の取組等を参考にしながら、自校園の教育活動を創造します。

学校園運営のイメージ

各学校園教育ビジョンの実現

各学校園は、各学校園教育ビジョンを策定の際、新潟市教育ビジョン第4期実施計画の中心的な考え方や目標、取組を参考にします。

自校園の教育活動の創造

教職員の願い・力を
連結・集結する「カリ
キュラム・マネジメント」

学校園運営の基盤

教育DX化に伴う「ICT利活用」

未来を担う子どもの
豊かな成長を地域総が
かりで支える「コミュニ
ティ・スクール」の推進

子どもや学校園を取り巻く「教育の動向」と教育委員会の願い

教育委員会の取組

「学校園運営の基盤」は「学習指導要領」や「教育振興基本計画」等の主旨を踏まえています。

- 教育委員会は、国の動向、新潟市の子ども達の現状(成果と課題)、新潟市の未来の教育を見据え、新潟市教育ビジョンを基に、施策を推進しつつ、各学校園の教育を支援します。

取組イメージ

新潟市教育ビジョン 第4期実施計画 中心的な考え方

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成
～学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり～

学校園教育に係る目標

目標
1

確かな学力の育成



目標
2

豊かな心と健やかな身体の育成



目標
3

創造性に富み世界と共に生きる力の育成



目標
4

インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実



目標
5

学びをつなぐ体制づくり



教育委員会の目標と主な方策・取組

教育委員会は、新潟市総合計画2030及び新潟市教育ビジョン第4期実施計画の具現化と、市全体の教育の推進・支援とを目指し、以下の取組を行います。

各学校園はこれらを参考に、自校園の教育目標や実態に応じて、「選択・集中」して学校園運営に反映させたり、方策や取組を「創造」したりして特色ある教育をさらに展開します。

目標 1

確かな学力の育成

1 資質・能力の育成のための「主体的・対話的で深い学びの実現」とそれを支える「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」による授業・保育の質の向上

- 理念を共有し、これまでの「新潟市の授業づくり(学習課題とまとめ・振り返り、単元デザイン、ICT、アウトプット)」に基づき、求められる授業改革の視点について、資料等の作成や研修会などにおける周知・支援
- 総合的な学習(探究)の時間のさらなる充実のための研修や資料提供
- 家庭と連携を図る家庭学習の習慣の確立のための資料提供
- 自ら学びを進めるための「学びの履歴(スタディログ)」の在り方の研究
- 幼児教育のセンター的役割に関わる実践研究への支援

2 学習の基盤となる情報活用能力の育成

- GIGAスクール及び図書館環境の一層の充実(学習eポータル、MEXCBT、電子書籍、デジタル教科書、プログラミング教材、新聞の複数配備 等)
- 情報活用能力の育成指標及び事例の提供
- 支援体制の充実(GIGAスクール運営支援センター、情報通信技術支援員、GIGA support web)

3 読書活動の推進と新聞活用の充実

- 読書センター・学習センター・情報センターとしての環境整備や小中連携・司書との連携の支援
- 新聞活用教育と新聞の複数配備の推進

4 実感を伴って学ぶ「アグリ・スタディ・プログラム」の推進

- SDGsモデル事業の中心的な取組である「令和版アグリ・スタディ・プログラム」の活用推進

目標 2

豊かな心と健やかな身体の育成

1 「認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う」学級の支持的風土の醸成

- 「支持的風土」の理念と新潟市が求める教師像、学級像の周知

2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導の実践

- 「自己存在感」「共感的な人間関係づくり」「自己決定」を意識した教育活動を推進するための資料提供及び研修会等での周知・支援

3 いじめ・不登校への対策の充実

- 特別支援教育の視点を取り入れた「改訂版:いじめ・不登校の初期対応ガイドブック(電子版)」の資料提供及び活用徹底のための周知
- 不登校未然防止に向けた不登校リスク把握の資料提供及び早期発見・課題解決への校内の組織的な取組の支援
- いじめ未然防止に向けた教育プログラム(学級活動と道徳科の指導構想案)の資料提供

4 子ども主体で「なりたい自分を描く」キャリア教育の深化

- 「人間関係形成」「社会・集団づくり参画」「自己実現」を目指した、学級活動や行事等、児童生徒主体の特別活動の校内研究等、研修への支援
- 授業や特別活動などでの成長を自覚し、自分の現在と将来・社会とをつなぎ合わせるキャリアノート、キャリアパスポート、キャリアカウンセリングに関する情報提供

5 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道徳教育及び多様な価値観を尊重する人権感覚を育む人権教育、同和教育の充実

- 考え議論する道徳授業への質的転換に向けた周知、啓発
- 人権教育、同和教育に関する理解の深化、意識改革、授業力向上に向けた研修会の実施と校内研修への支援

6 自ら健康を管理する力の育成

- 自校園の健康課題の解決に向けた、学校保健活動を推進する養護教諭や栄養教諭の資質向上を目指した研修の充実
- 生活習慣の改善に向けた事業、家庭への啓発活動、指導者派遣等の支援
- 体力ジャンプアップ事業として学校全体で取り組む体力向上マネジメントの推進

その他 豊かな人間性や社会性を育む体験活動の充実 / 互いに支え合い、共に生きることの大切さに気付く体験的な学びを重視した福祉教育の充実 / 学校と地域・大学が連携した体力づくり / 家庭と連携した食に関する指導の推進

目標 3

創造性に富み世界と共に生きる力の育成

1 SDGs達成を目指したESDの充実

- 関係機関と連携したカリキュラム開発と学習機会及び情報の提供

2 自己発信力を高める外国語教育の向上

- 小中高連携への支援と学校園の枠を越えた学習機会の提供
- 他団体・外部組織と連携し、実態に応じた研修機会及び情報の提供

目標 4

インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実

1 インクルーシブ教育システムの基盤づくり

- 多様化・高度化する特別支援教育に対する、組織的な取組に関する研修の支援

2 教育・福祉・医療等が一体となった支援体制の確立

- トライアングルシート等を活用した情報共有への支援
- コミュニティ・スクールを活用した保護者・地域への啓発に関する情報提供

3 生涯を見通した切れ目ない支援

- 個別の教育支援計画・指導計画の適正な作成と運用への支援
- 学齢期前後の確実な連携・協力に向けた周知・啓発

目標 5

学びをつなぐ体制づくり

1 幼稚園・こども園・保育園と小学校との、「学びの系統性」の確立

- 幼こ保と小学校との学びをつなぐ「架け橋プログラム事業」の周知と「架け橋期のカリキュラム」の開発

2 中学校区内の校種間連携の推進

- 目指す姿の意識化、学習内容や学習方法の連続性や系統性をもたせる取組の支援

3 特色ある高等学校教育の充実

- 社会的役割*1の再定義と「目指す資質・能力、教育課程、受け入れに関する方針*2」の策定・公表による、各校の特色化・魅力化推進への支援 *1:スクールミッション *2:グラデュエーションポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー

【施策以外の推進】

- 部活動地域移行：R8年度からは休日の部活動は地域活動に移行、将来的には平日・休日を問わず地域活動になる見通し(文科省)。R5～7年度までは準備期間にする。

【教育委員会の政策指標(児童生徒への質問項目)】

新潟市総合計画2030において、令和12年までの期間「政策5教育」の中で教育委員会として5つの政策指標を示しました。その中でも、学校教育に係る指標を基にした子どもの姿は下記の4つとなります。

- 将来の夢や目標を持っています。
- 学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしています。
- 自分にはよいところがあります。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあります。

子どもや学校園を取り巻く「教育の動向」と教育委員会の願い

- 社会の変化に応じて子どもの実態は多様化し、教育課題は複雑化しています。そこで新潟市では、子どもたちの多様性を前提とした「自分らしさ」が発揮される教育が必要であると考えています。そのために画一的・一斉一律等の指導のみに固執しないことが重要であり、個が活かされ、その子どもなりのよさが尊重され、可能性を引き出していくことをさらに追求していきます。
- 一方で、個々の多様な幸せとともに社会の幸せを願い行動することを追求すること(Well-being)が重要視されています。新潟市教育委員会としては、自己の成長だけではなく、仲間や集団の成長を願い自律的に行動できる「支持的風土の醸成」を出発点とし、子どもたちを育成したいと考えています。
- さらに新潟市の教職員は、献身的で熱意にあふれており、学びは教室や学校園内で終始することはないことから、ICTの利活用をはじめ、これまで当たり前捉えてきた境界や視点を越えた教育活動の柔軟な展開により、豊かな教育と働き方改革を推進します。

学校園運営の基盤

教職員の願い・力を連結・集結する「カリキュラム・マネジメント」

目的: 学校園の目標を具現化し、教育活動の質を向上させるために行う取組。次の3つの手段に基づき、自校園の実態を踏まえた取組を行う。

- 手段:**
- ① 学校園で設定した子ども像や資質・能力を育成するための教育課程を、複数の教科の関連を図りながら編成する。
 - ② ①が達成されるよう個々の教職員の力を組織的に発揮できるように校務分掌を整理し、具体的な教育計画を整備し、運用する。
 - ③ PDCAにより、教育活動の見直しを図っていく。

POINT: 教育課程の編成にあたっては、全教職員が参画するようにする。また、「目的・手段・見取り」の一貫性と、教職員が「何のためにそれをやるのか」や、そのために「誰と・何と連携して取り組むのか」を意識できるようにする。教育課程・教育活動やチーム・組織の「重点化・つなげる・見える化」がキーワード。

未来を担う子どもの豊かな成長を地域総がかりで支える「コミュニティ・スクール」の推進

目的: 地域と学校とが目標やビジョンを共有し、パートナーとして支え合い、連携・協働しながら、「社会に開かれた教育課程」を展開できるよう、「地域とともにある学校」づくりを行う。

- 手段:**
- ① 熟議: 多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねた課題解決を目指す対話。活発な議論により、的確に多くの意見を反映し、協働につなげる。
 - ② 協働: 同じ目的、目標に向かって対等の立場で協力し、共に行動する。熟議で共有された目標やビジョンに向かい、互いにできる具体的な活動を展開する。
 - ③ マネジメント: 教職員全体がチームとして力を発揮できるようにしていく。校内体制と地域人材や資源等を生かした「地域総がかり」の体制を構築し、目標やビジョンの達成を目指した学校運営を行う。

POINT: 学校運営協議会等での議論を充実させ、日常的に地域と学校が同じベクトルに向かい、協働する学校のイメージを関係者すべてで共有すること。

教育DX化に伴う「ICT利活用」

目的: 教育DX化に対応しながら、次の4つの手段に基づき、自校園の実態を踏まえた取組を行うことを通して、子どもたちの資質・能力をよりよく育成したり、働き方改革等を推進したりする。

- 手段:**
- ① データ利活用を含む、教職員の「ICT活用指導の向上」
 - ② 主体的・対話的で深い学びにつながる授業での「ICT活用の推進」
 - ③ 児童生徒の学習の基盤となる「情報活用能力の育成」
 1. 情報を集める力
 2. 情報を整理・分析する力
 3. 情報を伝える力
 4. プログラミングの能力
 5. 操作する技能
 6. 情報モラル、デジタルシチズンシップ
 - ④ 校務情報化による「働き方改革の推進」

POINT: 教育のデジタイゼーション、デジタルライゼーション、デジタルトランスフォーメーションのステップを意識して推進する。